

記 録 簿

件 名	令和 8 年度第 1 回牧之原市地域公共交通会議		
日 時	令和 8 年 6 月 22 日（月）午後 2 時 30 分～午後 5 時		
会 場	牧之原市役所相良庁舎 3 階第 1 第 2 会議室		
出 席 者	別紙出席者名簿のとおり		
協 議 内 容			
1 開会			
2 挨拶（副市長）			
日々進歩している自動運転や ICT を活用したデジタル化の動きの一方で、人口減少や利用者の減少、運転手不足といった課題により、持続可能な公共交通の在り方が問われている。 本市における公共交通は、令和 5 年度から始まった「牧之原市公共交通計画」に基づき、デマンド乗合タクシーの全域導入や高校生の通学定期券購入費補助金の開始、矢崎ものづくりセンターと連携した矢崎アローラインの運行、静岡空港・道の駅定額タクシーの運行など、新たな事業にも取り組んできた。 牧之原市第 3 次総合計画でも、榛原、相良両市街地と牧之原 IC 北側の高台開発エリアを結ぶ富士山型ネットワークの推進を位置付けており、総合計画の推進における公共交通の重要性は大きく、総合計画と公共交通計画の両輪でまちづくりを進めている。			
◎委員 25 名中 23 名（欠席：中山委員、水野委員）の出席により会議成立			
3 報告			
(1) 牧之原市地域公共交通会議について			
① 概要、年間スケジュール等・・・資料 1			【事務局 説明】
＜質疑応答＞なし			
(2) 令和 7 年度事業に関する事項（速報 簡易版）			
① 公共交通の現状（令和 7 年度実績）・・・資料 2			【事務局 説明】
② 静岡空港・道の駅定額タクシーの運行実績・・・資料 3			
③ 矢崎アローラインの利用実績・・・資料 4			
④ 高校生等通学定期補助の実績・・・資料 5			
＜質疑応答＞			
委 員：①空港道の駅定額タクシーについて、利用者への周知が不足していると思う。以前利用した際には、静岡空港に停まっているタクシーには「定額タクシー」の表記がなかった。また、乗り場についてもターミナルビル出入り口にも表記がなく、利用者としては分かりづらいのではないかな。			
②矢崎アローLINE の利用状況について、法律も改正されたことから、例えば 1 回乗車 100 円（ガソリン代程度）などで有料化するのはいかがでしょうか。それに伴い、朝や夕方の便を増やせば、萩間線等の接続も良くなるのではないかな。			
③資料 5 について、今年度の榛原高校・相良高校の在籍者数は。			
事務局：①定額タクシーについては、「定額タクシー」と表記のあるマグネットを事前にタクシー事業者に配布している。ただ、マグネットが貼っていなくても「定額タクシー」として処理していただくよう話はしてある。マグネットの枚数にも限りがあるので、ご理解いただきたい。			
また、PR については、空港内にポスターを掲示することができないため、現在はデジタルサイネージに映像を流している。15 秒映像が流れるようになっているが、流れ終わると次の映像に切り替わってしまうため、周知については、今後工			

夫していきたい。

②矢崎ものづくりセンターさんのご好意でやっただいています。運賃を取ると道路運送法上の手続きが発生する。地域貢献として運行しているため、運賃を取る・取らないについては、矢崎ものづくりセンターさんがどう考えるか。現状で問題なく運行できているため、これ以上の増便については、利用者が増加してから相談していく。

③令和8年度の生徒数については、手元に数字がないため、次回の会議で報告させていただきます。

委員：運輸支局です。資料4に係る運賃の関係について。道路運送法における許可または登録を要しない運送については、完全に無償でなくとも実費額に相当する分はいただいても問題ないというガイドラインが出ている。例えばガソリン代や、有料道路利用料など。これは特段現在の体制を変えなくてもできるということを補足させていただきます。

委員長：制度上はできるということであるが、運用上会計処理なども生じるため、今後引き続き企業側と話していく必要がある。また、空港内だとフロアに色が付いたラインがあって辿って行けば目的地に着くのは非常に分かりやすい。デジタルサイネージだとその場で立って確認しないといけないが、全体の案内の統一性もあるかと思うので、空港側と話しながら検討していただくのが良いかと思う。

委員：デジタルサイネージは空港のどこに置いてあるのか。プラスであと2台程度設置して、ターミナルの出入口付近にあればなお良いと思う。

また、現在は大きな空港や海外ではUberが大きく打ち出されている。そういった現状を踏まえると「定額タクシー」を本気でやっていくのかどうなのか、単なる試験運行なのか。乗降場所の表示がラミネート表示なのも本気度が見えない。制度がせつかくあるのであればもっと使ってもらう工夫が必要。

空港の駐車場代は今1,000円。ただし山梨県の方などが使うとただ。地元民がお金を払うという仕組みはどうか。

富士山静岡空港株式会社に聞いていただきたいのは、駐車場の全面有料化以降、利用率はようになったのか。次回の会議で数字を教えてください。

委員長：空港の利用状況等の数字は出していただける可能性もあると思うので、検討を。

委員：矢崎アローラインは、従業員との同乗が発生しているか。

事務局：回送部分の利用になるため、従業員との同乗は基本的には生じない。

委員長：矢崎ものづくりセンターまでは、車での送迎が基本となると思うが、駐車場問題は起きていないか。

事務局：利用する学生を家族が車で送迎していることが多い。矢崎工場付近は出勤時間になると混雑するが、アローラインは7時前後の出発になるので、渋滞には巻き込まれない。また、送迎する車は矢崎ものづくりセンターの来客用駐車場に入って乗降をしてもらっている。

(3) 令和8年度事業に関する事項

① 牧之原市地域公共交通計画(R9~R12)の策定について・・・資料6

② 各事業の方向性と課題について・・・資料7

【事務局 説明】

<質疑応答>

委員：学校再編について、スクールバスで児童生徒を送るということは自主運行バスを利用する人が減少してしまう。既存のバス路線を絡めてスクールバスについては考えてほしい。バス路線には高台開発も絡んでくるため、学校再編・公共交通・高台開発は三つ巴で考えなければならない。

また、通学定期券補助について、中学生対象にはならないのか、という意見を聞いたので伝えさせていただきます。

教育文化部：スクールバスの運行については、今年度から協議を初めて詳細を決定していく段

階。既存の公共交通を含めて子供たちの学校への登校を検討していく。公共交通だけで全て登下校が賄えるわけではないので、そういった公共交通のないところについては、スクールバスを用意していく、それを今後調整していくという段階。

委員：スクールバスは一般の住民は乗れるのか。児童生徒だけが利用できる、というのが一番問題になると思う。相良地域は、相良御前崎線や相良浜岡線、萩間線を利用入れることができればかなりカバーできる。児童生徒が済んでいる旧道に小型バスを入れてやれば解決する。

今、旧片浜小学校の児童が利用しているバスは本当に必要なのか。藤枝相良線が走っているのだから、それを利用できないか。

また、しずてつジャストライン株式会社に伺うが、藤枝相良線は相良から榛原まで何個停留所があるのか。そこを使えば旧片浜小学校の児童も登校できるのではない。自主運行バスは他市も影響する。牧之原市だけで考えて良い問題ではない。

委員長：教育文化部の説明でもあったが、公共交通が使えるところは、基本的にそちらを使う。それでも難しいところはスクールバスということも考える。公共交通だと4条の問題も出てくるので、実はスクールバスよりも運転手の問題など難しいところもある。お金さえ出せば全てを公共交通でカバーできる、という状況でもない。

ただ、学校はスクールバスだ、として公共交通を見ないで進めてしまうと非常にもったいない。公共交通計画の中にも「義務教育学校の開校を見据えた」という要素が入るため、公共交通と教育が連携していく必要がある。

私は、こどもの移動についても研究しているので、自宅から学校までスクールバスに変わったところはかなり体力が落ちる。保護者が車で送迎している都道府県では、肥満児の発生率が実際に高くなることが分かっている。しかし、歩いては行けない距離のこどもについては、例えば旧小学校まで歩いて行き、そこから公共交通に乗る。そうすることで歩く距離を確保することもできるし、地域地の交流も生まれる。ある程度の人数が集まれば、公共交通を活用できる。

スクールバスの場合、島根県雲南市などで実施しているが、学校の少し遠くでこどもたちを降ろす。そこから歩いて行くことで運動の機会や地域との関わりを設けている。

自宅から学校周辺まで全部送るという考え方だけではなく、公共交通を利用できる所はある程度利用するという考えも必要。教育文化部との連携が、次の公共交通計画策定には重要になると思う。

委員：しずてつジャストラインです。藤枝相良線については、補助路線ということもあり、自由が利かないところがある。学校再編がどうなっていくのかも関係するので、今後は行政と相談していく形になる。

委員：根松の駐輪場を整備していただいたおかげで、綺麗に自転車が停めてあるのを見る。静波海岸入口の駐輪場の整備が進んでいないと思う。自転車を置いて雨が降ると濡れてしまうので、屋根などの整備をしていただけたら有難い。

委員：（しずてつジャストライン）マナーの問題もあって管理方法がネックになっているのは事実。自分で処分されない方がそのまま置いていってゴミになってしまうこともある。一方で、利用者がいるということも分かる。今後、利用状況と今の混雑状況を見ながらどのようなことができるか考えていく必要がある。

委員：富士山型ネットワークという言葉は、ずいぶん前から出ている。高台開発はどうなっているのか、学校再編はどうなっているのか、部分部分から話がある状態。これから牧之原市はこうなるんだ、という力強い言葉をまずいただきたい。その中で、この公共交通会議は中心になるべきだと私は考えている。

副市長：高台開発については、既に土地の売却を進めており、ここ2年3年の間には着手という形で進めることになっているため、バスターミナルなどについても検討していく状況。

学校再編については、榛原地域は令和12年度、相良地域は令和15年度開校に向けて、榛原の方は実施設計を進めている。だんだんと見える形になってきている。

また、沿岸部活性化については約60億円をかけて、民間の投資もいただきながら

進めるという計画もある。沿岸部、高台、空港等も含めて全体を行き来できる交通網を考えていく。

委員長：資料6にスケジュールの記載があるが、8月から10月までがモビリティデータ収集・分析・ニーズ把握調査、11月12月1月が計画の素案を完成させていくというもの。8月から10月とか第2回あるいは評価改善部会のあたりで今議論にあったようなところ（高台・学校再編）の方向性を出して議論したほうが良いかと思う。2月にパブコメになると、実は第3回では、ほぼ素案が完成するということになる。意見を言う機会がないということもあるので、できれば次回か10月に調査をしなくても検討できる部分は示していただけると良いと思う。

委員：1点要望で、既存の路線バスの再編や新規路線の創出を検討すると記載があるが、会社としてやはり事業を継続していくためにいろいろな施策は考えているところであるが、なにぶん運転手が不足しているというのが現状。引き続き、広報等による運転手の募集はぜひ力を入れていただきたい。また、移住政策についても、関東圏から相良に移住した方が今運転手として働いていると聞いている。仕事内容も非常に気に入ったとも聞いている。県外にもぜひPRしていただきたい。

委員：根松牧之原警察署入口の下りは、夜真っ暗になってしまうので、該当の設置などを検討してほしい。また、同場所の自転車置場をより増やせないか。考えていただきたい。

事務局：根松牧之原警察署のバス停は、近くに24時間経営のガソリンスタンドがあるが、恐らくバス停までは明かりが届いていないと思う。状況を確認して検討する。サイクルラックについては、令和7年度に設置して更に増設した。サイクルラックがあるとそこに自転車が集まるので、設備については検討していく。

委員長：自転車が増えているということは利用者が増えているということで、空間的な制約はあるが、台数が増えていくこと自体は悪いことではないと思う。外灯も含めて検討していただければ。

（４）その他報告事項

- | | | |
|----------------------------------|---|----------|
| ① 市の交通空白地域の追加について・・・資料8 | } | 【事務局 説明】 |
| ② ライドシェア勉強会について・・・資料9 | | |
| ③ 榛南地域周遊バス実証運行事業について・・・資料10 | | |
| ④ ハッピーライド in 静岡プロジェクトについて・・・資料11 | | 【静岡県 説明】 |

＜質疑応答＞

委員：資料10について、実際に乗ってみて他の乗客に聞いてみたところ、周遊出来て良いという話を聞いた。両庁舎が乗降場所になれば利便性も上がると思い、提案させていただいた。運行ダイヤが実際に利用しにくい内容であったので、例えば公共交通会議の場で委員の意見を聞いて実証ができれば、利用率も上がったのではないかと思う。

また、資料11について、11月には市産業祭があるので、県にはテナントを出してハッピーライドの取組をPRしていただきたい。しずてつジャストラインやタクシー事業者もこのような機会にぜひPRを。

また、資料9の夜間ライドシェアについては、飲食店が主になるため商工会にも入ってもらい、NPOなどを作って実証をまず行うべきではないか。どのような属性の方が利用しているのかを調査してから、その後、行政が絡むのか絡まないのかの話になるのではないか。

委員長：周遊バスについては、今回は民間が国庫補助金を使って実証をしたが費用対効果が合わないという結果であった。これから分析を進めて可能性を探っていただきたい。

ハッピーライドについては、広報が大事。民間がPRに乗ってくれると良いと思う。イベントに合わせて商業施設も少しこどもに安くするなど。富山県全体でや

っていたかと思うが、こどもが祖母祖父と一緒に公共施設に行くと公共施設の使用が無料になる。交通だけではなく、目的地に行きたい・目的地にお得感があるとするより活性化するのではないかと思う。

ライドシェアについては、他の地域でも同様の問題があるため、いざライドシェアをやろうとなってもさまざまなハードルがあったり、持続可能性がなくて出来ないところが多い。ライドシェアの制度があるからといってすぐできるものではない。何度も調整をしながら持続的に検討していくというのが非常に重要だと思っている。

行政にやってください、だと上手くいかない。行政でもやり切れないところがある。かといって行政抜きでやるというのなかなか難しいため、連携していくことが大事。愛知県だとライドシェアのファシリテーターを県が派遣するという事業があり、そういった制度を使って継続的に議論をして実証にまでこぎつけた地域もある。根気強くやっていくことが大事

委員：ライドシェアと言われるとタクシー事業者として大変責任を感じる。乗務員の高齢化や労働基準法の関係で拘束時間が短くなった。限られた従業員をどのように稼働していただくかを考えるのも大変。人員が増えればそれで良いかというと、その分の費用はどこから出るのか、どの問題もある。

6月1日のライドシェア勉強会で、運行管理をやってくれるかという話が出たが、できないとはっきり申し上げた。「人を乗せて走る」ので、そんなに簡単に良いとは言えない。

また、榛原から相良へ迎えに行くとキャンセルになる。その分の費用はどこからも出ない。お客さんにとっては、待ち時間が3分であってもそれ以上に感じる。そういったことは従業員にも共有して最大限の努力はしているつもり。安全に走るには互いが納得した中でやらせていただくことが大事だと思う。

委員：現在は、運転者不足に加えて、石油の高騰、さまざまなものの値段が上がっている。例えば公共交通だと、利用者が増えても運行経費が嵩み、収支が非常に悪く見えてしまうこともある。

その中で、国としてライドシェアを打ち立てて運送事業者のできない部分を担えないかというところで始めたが、この制度も運転手問題がある。公共ライドシェアは、運行管理を運送事業者任せにすることもできるという制度内容ではあるが、内容自体が複雑になりすぎて手が回らないといった状況もある。導入の際には、運送事業者としっかり検討していくことが重要だと思う。

利用者にとっては、安くて利用しやすいものがあれば一番ではあるが、サービスにはどうしても対価がかかるということを認識していただく必要がある。安ければなんでも良いという考えは、どの産業においても持続可能性を維持できないということを理解していただきたい。

委員長：個人的には、今回の法改正が地域資源のフル活用にかなり着目をしていることはもちろん大事であるが、バス運転手・タクシー運転手が増えるような、例えば補助上限を上げるなどの取組を、国にも検討していただければと思う。

4 協議事項

(1) デマンド乗合タクシーサービス拡充事業について・・・資料12 【事務局 説明】

<質疑応答>

委員長：運行時間が変わる可能性があるということか。

事務局：運行時間追加になる可能性があるというところと、静岡県共同管理プラットフォームを使ってオンライン予約ができるようになる可能性があるという点

委員：国土交通省では令和7年度から9年度を交通空白解消集中対策期間として設定している。全自治体に交通空白地がどれくらいあるか調査をしており、交通空白に係る補助金を令和7年度から実施している。おそらく来年度も補助金はあることが予想されるが、前年度と全く同じ取り組みは基本的には採択されないため、来

年度のことを考えると本年度の事業の中でどういう体制で実施するのが有効かなどを考えながら来年に繋げていただければ。中長期的な見方が必要であるし、集中対策期間が終わってから、この運行経費が自治体として問題ないかなども加味しながら実証していただきたい。

事務局：来年度以降については、土日祝にも需要があるか、特定曜日への集中が緩和されるかを含めて検証していく必要がある。例えば、金曜日の予約が分散化されれば相対的には予約数はそこまで増えないのではないかと思う。無理なく継続できるように確認をしながら進めていく。

委員：この取組とともに定額タクシーと一緒にPRして欲しい。オンラインで予約できるのが望ましい。

事務局：定額タクシーこそオンライン予約が必要だと思うので、検討していく。

委員：追加停留場に関して、基本的にバス以上タクシー未満というような形で運賃を設定されていたかと思うが、今回も同様か。

事務局：運賃については、このあと協議部会で協議になるが、基本的には現在の運賃区分と同じ。バスより高くタクシーより安い金額

委員：承知した。土日になるとバスが減るという意見はもっともだと思うが、利用状況に応じて便数を設定している。牧之原市内外、近隣自治体にも路線の維持という面で影響が出ないわけではない。お客さんを取り合うつもりはないということは重々承知しているので、バスに繋げるような考え方でやっていただきたい。路線の維持をしていくためにもご理解をいただきたいところ。

委員長：利用者の増減だけでなく、既存のバスからデマンドを使うようになったのかという視点も入れて実証結果を見ていく必要があるかと思う。

5 その他

【事務局 説明】

事務局：御前崎市が昨年度から運行を開始しているAI オンデマンド交通 OM mobi. について、御前崎市から今年度中に牧之原市内への乗り入れを開始したい旨の相談を受けている。牧之原にとっては非常にありがたい話で、負担金等もないので OM mobi. を使って御前崎市への移動が便利になればと考えている。

この件については、書類が整い次第書面決議をさせていただく。市内乗り入れ箇所は、御前崎中学校、静岡銀行御前崎支店、酒井内科医院、JA ハイナン地頭方支店の4箇所。こちらのポイントを利用して御前崎市へ買物や病院に行くことができる。

6 閉会